

J T B 東京支店日食ツアーについて

石 橋 彰

1980年2月16日、アフリカ、インドを通過した日食には、私達を含む約200名程の人達が両地域に出かけたと聞く。私が参加した団体についての紹介と、観測の報告をする。

<グループ>

J T B 東京支店の募集した日食ツアーで、一般の観測者、観望者を対象として、J T B 東京支店が独自に作ったグループであり、最終的には23名の参加があった。このグループの特徴は、団長・隊長・リーダー等の代表者がいなかった事であろう。参加者も、初参加の人、他のグループに入りそびれた人、どのツアーでもよい人、最後まで日程の調整のつかなかった人、さらに、J T B というネームバリューで決めた人達であったようだ。地域別に分けてみても、地方の人も多かった。

<観測地・観測・観望の概要>

観測地点は、ハイデラバードより約230km南西に位置するライチュール（人口約10万）の郊外ヤラマース平原に決定、私達の場所は、理大インド隊の80m程東側に位置した。三方に開けた絶好のサイドであった。

15日の昼より準備を開始し、同時にリハーサル（各個人）を終え、夜は星夜の観望を楽しみ、その後極軸の微調整、器材の監視の為に数名が徹夜した。ここでは天気の安定度が抜群に良かったが、気候の為か透明度は今一つであった。

16日当日は、朝から快晴に恵まれ、絶好の観測日和であった。気温の上昇と野次馬に悩まされながらも、日食は予報通り始まり、予定通り何の異常も起こらずに終了した。コロナは典型的な極大形であり、素晴らしい景観であった。参加者達も、それぞれのスケジュールをほぼ消化した様である。皆既日食終了後も、皆既の興奮覚めやらずという感じであった。持参した双眼鏡を一度ものぞかなかった、とか、カメラにフィルターをしたままとかは、日食ならではのエピソードであろう。

17日の朝、ライチュールを出発し、ハイデラバード経由でポンペイ入り、18日には、ジャイプールの天文台跡を見学した。18世紀初めに、ジャイ・シーンによって造られたものである。さすがにスケールの大きさを感じさせるものであった。19日、アグラのタージマハール、アグラ城見学の後、ニューデリーに入り、ニューデリーから夜の便で帰国した。

<終わりに>

以上がJ T B インドツアーの概要である。上記以外にも、ビデオの通関が不可能だったり、参加者がいつの間にか1人増えたり（ハイデラバードの飛行中に気付いた）等の多くのエピソードは、参加者各自の胸の中にいつ迄も消える事なく残っているだろう。なお、観測によって得られたデータは、現在、各個人によって解析中であり、追って、その筋に発表されるであ

ろう。最後に、観測各方面で、理大インド隊の足立氏に大変お世話になった。参加者全員を代表して、深くお礼を申し上げたい。

＜参加者名簿＞

氏名	住所	遠征回数
飯島英夫	埼玉県	1
木村英三郎	東京都	3
橋本正人	岐阜県	2
石橋彰	神奈川県	2
鷺見敏郎	岐阜県	1
柴崎和夫	埼玉県	1
田中裕子	東京都	1
三束洋一郎	東京都	1
奥田雅宣	東京都	1
中宮邦彦	東京都	1
岩上洋子	神奈川県	2
竹内秀明	埼玉県	1
中溝政孝	千葉県	2
加藤かほる	千葉県	1
菅野松男	兵庫県	1
菅野洋子	同上	1
杉村高志	兵庫県	1
森裕	東京都	1
遠野和夫	東京都	3
中辻房男	大阪府	2
鶴嶋一郎	大阪府	2
杉本芳啓	東京都	1
上野弘道	JTB ツアーディレクター	2